

令和5年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立大沼小学校 教諭 ディアス 和子

- 1 派遣①期日 令和5年 9月 8日（金）
- 2 派遣先 学校名（会場名）つくばみらい市伊奈東小学校
所在地 茨城県つくばみらい市板橋2379
<https://blog.city.tsukubamirai.lg.jp/blog/inahigashi/>
- 3 研修内容
授業参観および研究協議：6年2組 授業者 教諭 野澤 愛（外国語スペシャリスト）
研究テーマ：「できそう」「やりたい」「できた」を児童が実感する学習指導の在り方
単元名 Unit4 Summer Vacations in the World (New Horizon Elementary 6)

4 感想

本単元の目的設定は、「オーストラリアに住むALTの友達に日本の子どもの夏休みについて知ってもらうために」というものであった。ペアワークにおいても、話し手（日本人）・聞き手（オーストラリアの子）という役割分担があることによって、「英語で話す必要があるのか」という点が明確であった。また、「本時のめあて」を教師が提示するのではなく、単元の目標と実態をふまえて、「では今日は何を目標に学習をしようか？」という問いかけから児童たちがToday's Goalを考え、文言を決めていた。そうした場面から、児童たちが単元の目標をしっかりと把握したうえで、学びに向かっている様子を見ることができた。

児童たちは、それぞれの夏休みについて9文から10文程度で話すことができおり、友達とのコミュニケーションを楽しんでいる様子であった。自分が伝えたい内容についてロイロノートにイラストを貼り、発表の原稿としており、文字に頼らずに視覚資料のみを元に話すという点が大変参考になった。英文の提示がないために文字に頼ることができない分、しっかりと聞いて練習する習慣が付いているように感じた。ロイロノートではそれぞれの内容に教師が発音する音源を加えており、言い方がわからない時には音源を再生することによって何度でも聞くことができるようになっていた。児童たちが伝えたいことを言えるように個別指導が行き届いていた。

また、ICTの活用に関しては、教室内に電子黒板が2つあり、教師用PCとタブレットを駆使した授業であった。また、振り返りはPadletで行い、授業内に感想の共有ができていた。

クラスルームイングリッシュを始め、ALTのモデルスピーチの在り方、評価基準の提示、語順の確認や英単語を読む練習になるカルタ＋語並べゲーム、授業中のペア活動や回転寿司ペアの替え方など、授業作りに参考になるアイディアがたくさんあり、大変有意義な研修になった。

- 1 派遣②期日 令和5年 11月 7日（月）（オンライン）
- 2 派遣先 学校名（会場名）八千代町立中結城小学校
所在地 茨城県結城郡八千代町菅谷351
<https://www.town.ibaraki-yachiyo.lg.jp/page/page009227.html>
- 3 研修内容
授業参観および講義：5年1組 授業者 安部 加代子
講師 文部科学省 初等中等教育局 視学官 直山木綿子
研究テーマ：個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実および主体的・対話的で深い学びの視点での授業実践による児童の学力向上
単元名 : Unit 6 What would you like? (New Horizon Elementary 5)

4 感想

本単元の目標は、総合的な学習の時間で行う「我が町地産地消フェスタ」においてお客様をもて

なすために、ていねいな表現を使って注文をしたり会計をしたりすることについて学ぶというものであった。目的が明確にあることで、必要感のある学習となっており、児童たちは実際に地元で生産されている野菜や果物を使った料理やデザートをそれぞれ紹介したり、注文を受けた商品をタブレットで相手に送って提供したりと模擬接客に熱心に取り組んでいた。

中間指導として、子どもたちのやりとりを録画したものを全員で見て確認し、良い点や改善点について話し合う場面が印象的であった。その場面を全体で振り返って共有することで、1人の課題を全員で解決し、共通の学びに変えていく課程を見ることができた。

ICTの活用に関しては、オンライン視聴であったこともあり、児童タブレットの細部やどのようなアプリを使用していたかまで確認できず、残念であった。児童たちは、自分のメニューについてタブレットを相手に見せながら、使用された食材やその産地について説明し、注文されたものを相手に送信することによって商品の受け渡しをしていた様子であり、興味深かった。

全体として、教科書に紹介されている基本文以上の英語表現を活用しており、Welcome to ...やPlease come again. といったお店で使われる表現を含めて、場面に合わせて使うことができていた。児童たちは自分で考えた商品について模擬的に友達と英語でやりとりをすることを楽しんで、「できる」から「楽しい」と感じている様子が伝わってきた。

1 派遣③期日 令和5年 12月 6日(金)

2 派遣先 学校名(会場名) 福津市立上西郷小学校

所在地 福岡県福津市内殿591番地の4

<https://www.city-fukutsu.ed.jp/kamisaigou-e/index.cfm/17,1095,html>

3 研修内容

授業参観および研究報告：5年1組・6年1組 授業者 橋詰 泉

迫 愛可

研究テーマ：「できそう」「やりたい」「できた」を児童が実感する学習指導の在り方

単元名 お互いの文化のイチオシを伝え合おう This is the Best One in Japan

4 感想

上西郷小学校では、文部科学省の指定を受け、「対話力」を「言語や非言語を用いて多様な他者と円滑にコミュニケーションを図る態度や能力」と定義し、「対話学習」について5年間の研究を進めていた。「ダイアログの時間」と「英会話科」を新設し、総合的な学習の時間、国語、外国語(外国語活動)の時間の中で組み替えて授業を進めていた。コミュニケーションそのものについて学習をするという考え方に触れ、外国語科だけでは養えない母語での基本技能「聞く」「話す」「話し合う」「対人関係」というスキルを磨くことの必要性を改めて考えさせられた。

会場に着くとすぐに、児童からあいさつをして話しかけてくるなど、多様な他者とのコミュニケーションを楽しむ文化が校内にあった。5年間の研究授業で育成されたコミュニケーションスキルは、5年生6年生の公開授業で十分に発揮されていたように感じた。カリキュラムは自校化されており、5年生と6年生は重要単元については複式で中学生の内容を含む表現を学習していた。

「ALTやその友達(外国人ゲスト)とそれぞれの文化について伝え合おう」という目標のもと、本時の学習が進められた。10人の外国人ゲストと小グループになり、発表したり、外国人ゲストからの質問に答えたりしていた。グループ構成は2学年が混合での習熟度別になっており、個別最適であり、かつ協働的な学びの場面となっていた。個人差はあるものの、自己紹介やゲストへの問いかけを含めたスピーチは15~20文ほどに及ぶ児童もあり、英語の運用力が非常に高く、ほとんどの児童が発表を楽しんでいた様子だった。英文原稿はなく、写真一枚を見せながら発表ややりとりをするというスタイルであったことも印象的だった。

上西郷小学校の児童たちが5年間で習得した技能の高さに驚かされ、良い刺激を受けることができた。大きな研究発表と公開授業に参加し、研究理論や成果に触れることによって、外国語教育の今後の在り方や目指す児童の姿について考える大変貴重な機会となった。